



大阪市立大学  
工学部同窓会

# 同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06 (6607) 8 3 7 3

FAX 06 (6605) 2 7 6 9

発行人 田守 芳勝



小田一紀 撮影

## 《 目 次 》

表紙は「京都嵯峨野」…………… 1	学科の近況・会員短信（バイオ工学科）……………12
田守会長・大嶋名誉会長の挨拶…………… 2	〃 （知的材料工学科）……………13
募金にぜひともご協力を…………… 3	〃 （環境都市工学科）……………14
平成21年定年恩師の寄稿・JABEE認定…………… 4	平成21年工学部卒業生名簿……………15
学科の近況・会員短信（機械工学科）…………… 5	〃 工学研究科修了生名簿……………16
〃 （電気工学科）…………… 6	〃 工学部入学生名簿……………17
〃 （応用化学科）…………… 7	〃 工学研究科入学生名簿……………17
〃 （建築学科）…………… 8	工学部同窓会事務局年報……………18
〃 （都市基盤工学科）…………… 9	平成22年評議員会案内・工学部電話番号・後記……………19
〃 （応用物理学科）……………10	平成22年“工学部同窓会の集い”の案内……………20
〃 （情報工学科）……………11	

## ごあいさつ

会長 田守 芳勝



大阪市立大学工学部同窓会が創立50周年を迎えるにあたり、この記念すべき節目のときにしかできない事業をしようということで、昨年より実行委員の皆様にお知恵を絞っていただき、50周年記念事業を立ち上げ、皆様のご協力の元、鋭意推進中であります。

計画しております3つの事業はもう何度も言っておりますように、

### ①大阪市立大学工学部同窓会50年の足跡を明らかにし、整理する。

本来ならばこの機会に50年史を発行し、先人達が残してくれた業績を明らかにすべきと考えますが、50年史を編纂、発行いたしますと1000万円以上の費用が発生いたします。現状の同窓会会計の窮状を慮るとき、50年史の発行は断念いたしました。

ただ今後創立60年、75年に財政が豊かになり、記念誌を発行するときに、歴史的な空白を作らないように創設以来の資料を整理しておくことにいたしました。

### ②同窓生に対してホームページを中心として、役に立つ情報を提供できるようIT環境を整備する。

現状の会報やホームページの充実は勿論のこと、卒業生や企業、大学、先生方、現役学生たちが互いに知りたい、伝えたい情報を互いにやり取りできる情報インフラを作り上げる。

### ③大阪市立大学工学部を志望する学生に対する奨学金制度の設立。

経済的に困窮しているが、大阪市立大学工学部を志望する、優秀な高校生に対し、一般入学試験の合格を条件に奨学資金を貸与する制度を設ける。年に5、6名の学生に貸与するが継続して運営するには5～6千万円の資金が必要となる。

これらの事業を円滑に実施するために、今まで蓄積してきた基金の一部を充当すると共に50周年記念募金をお願いし資金の一部に繰り入れたいと考えております。

10月はじめから募金を開始しておりますが、皆様方のご理解をいただき、暖かいご支援が続々と集まっております。心から御礼申し上げます。

我々の誇りであります大阪市立大学工学部に優秀な学生が集まるよう同窓会としてバックアップしたいと思っております。引き続きご支援のほどをお願い申し上げます。

世界的な経済危機はいまだ出口も見えないようです。庶民の暮らしも一向に余裕ができませんが、朝の来ない夜はない。山より大きな猪は出ん。明日を夢見て元気を出しましょう。  
(応物：昭和38年卒)

## 工学部・工学研究科の近況と同窓会との連携

名誉会長 大嶋 寛



政治の世界では、国や地方に新しい風が吹き始めているように思いますが、同窓会会員の皆様の周りでは、何か希望に満ちた風が吹いているでしょうか。工学部では、10学科体制から機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科、都市学科の6学科

体制に移行し、今年の4月にそれぞれの新生を迎えました。お陰様で順調なスタートをきっています。昨年度までに入学の学生は、今までの10学科のメンバーとして学び、そして卒業します。大学院は機械物理系と電子情報系、化学生物系、都市系の4専攻体制と変更ありません。このところ、学部と大学院の改組が続きましたので、戸惑われている同窓会会員の皆様も多いかと思いますが、学部の教育体制が変わったとしても、工学部あるいは工学研究科と皆様との関係が変わったわけではありません。大学に来ていただければ、状況をご理解いただけるものと思います。教員あるいは後輩と皆様との繋がりを密接にさせていただくことが工学部・工学研究科と同窓会両者の発展にとって重要かと思っておりますので、是非に足を運んで下さい。

工学研究科では、大きな研究戦略を考えるグループを立ち上げ、いままで研究者個人に依存していた研究体制に、横に協力し合えるグループとしての研究体制をリンクさせる新しい取り組みに着手しています。これは、外部資金の導入や新しい研究分野の開拓に繋がることを期待しての取り組みですが、大阪市の科学技術振興施策と共鳴することによって、地域の発展への一層の貢献ができることになるとも考えています。今、工学部同窓会50周年を記念して2つの事業が企画されています。一つは、「同窓会会員に役立つ新たなネットワークの構築」で、情報交換インフラストラクチャ(基盤設備)とその運用システムを工学部同窓会に構築するというものです。このネットワークは、同窓会会員のためというのですが、工学部・工学研究科をさらに活性化するためにも大いに役立たせていただきたいと期待しています。工学部・工学研究科にも広報チームが立ち上がり、活発な活動を開始しています。この同窓会便りが皆様のお手元に届く頃に前後して工学部のホームページが刷新され、そこにも同窓会の皆様と交流する窓口が開かれているはずです。大いにご利用下さい。事業の二つめは、「優秀で工学部受験を希望しながら経済的理由により修学が困難な生徒に入学前に約束する奨学金制度」です。奨学金給付対象者に選ばれた後、大阪市立大学工学部を受験して入学試験に合格すれば、奨学金が貸与されるというもので、受験生にとっては心強い支援になるものと思います。工学部としても、この事業によって優秀な学生を迎え入れることができると大いに期待しています。同窓会の基金と皆様のご寄付で運営されるこの事業が、優れて価値あるものになるよう工学部として努めたいと思います。

工学部・工学研究科同窓会会員の皆様のご支援に感謝しつつ、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(工学研究科長兼工学部長、工学研究科教授)

# 募 金 に ぜ ひ と も ご 協 力 を

同窓会設立50周年記念募金実行委員会

同窓会では現在、同窓会設立50周年記念事業の一つとして会員、準会員(在学生)、および特別会員(教員)の皆様に募金をお願いしております。ここでは、現在に至るまでの経過、寄付金の大半を投入して創設する奨学金制度の概要、募金の進捗状況、を報告させていただき、募金の成功に向け一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## <経過報告>

来秋2010年11月に同窓会は設立50周年を迎えます。昨年9月、会長の諮問機関として「次なる新たな半世紀へ」に向けて同窓会は何をなすべきかを模索する小委員会を発足させ、

- (1) 工学部同窓会50年史の編纂
- (2) 会員、在学生、教員間の世代を超えた交流を図るITインフラの構築
- (3) 工学部同窓会奨学金の創設
- (4) 上記(2)、(3)の構築・運営に必要な資金の調達を目的とした募金(一口5,000円、目標額3,000万円)の実施

を内容とする設立50周年記念事業案をまとめました。これらの記念事業案は、本年1月の理事会においてさらに検討が加えられたのち、2月20日の評議員会で承認されました。

その後、同窓会会長・副会長会議に工学部長にも同席いただき、特に奨学金制度の大枠について、(1)入学後の奨学金貸与を受験前に内定するユニークな奨学金とする、(2)奨学金は同窓会現有資産からの3,000万円と今回募金の寄付金の大半(できれば2,000万円以上)を加えた金額で運営する、(3)奨学金制度の詳細については工学部の意向を尊重する、としてまとめられ、これらは8月10日の理事会で承認されました。

一方、募金事業の実施に先立って7月下旬に理事の方々には実行委員に、評議員の方々には発起人に、工学部教員および元工学部教員の先生方には特別発起人に就任くださるよう依頼し、8月10日の第1回実行委員会を経て、募金趣意書を9月10日付で会員の皆様に郵送いたしました。

## <工学部同窓会奨学金制度>

大阪市立大学工学部で学びたいが経済的理由により入学後の修学に困難が予想される優秀な高校生に対して入学試験前に奨学金貸与を内定し、入学試験に合格した場合には入学手続き時より奨学金を無利子で貸与する、全国的に見て新しい奨学金制度を創設いたします。

工学部教授会でまとめられた平成22年度入学試験受験生向けの奨学生募集要項の概要を以下に示します。

貸与金額：一人当たり、入学手続き時50万円、2、3、4年次に各25万円(入学金および学費のほぼ半分に相当)

貸与内定人数：6名(入学定員の2%)。内定者の中に入学試験不合格者が出た場合でも追加募集は行わない。

返済：期間は卒業後(大学院進学者は大学院修了後)10年とし、毎月均等返済とする。ただし、特別な事情が生じた場合には返済期間の延長を認める。

応募締切：2010年1月22日(金)

応募書類：奨学金申請書、学校長の推薦状、成績証明書、家族状況調書、父母または家計を支えている方の源泉徴収票や確定申告の写しなど収入を証明する書類

選考：書類選考。経済困窮度の高い者を優遇する。

選考委員会：工学部教授4名、同窓会委員2名で構成する。

内定通知日：2010年1月29日(金)

初回貸与日：前期日程入試合格者は3月12日(金)、後期日程入試合格者は3月25日(木)

## <募金の進捗状況>

募金の進捗状況(2009年11月12日現在)

会員種類	学 科	寄付者数	口数	金額(円)
同窓会員・ 準会員	機械工学科	74	216	1,078,750
	電気工学科	64	156	779,895
	応用化学科	66	199	994,775
	建築学科	41	92	460,000
	土木工学科*1	71	157	784,490
	応用物理学科	64	216	1,080,000
	情報工学科	3	7	35,000
	生物応用化学科*2	3	6	30,000
	知的材料工学科	0	0	0
	環境都市工学科	2	4	20,000
現教員(卒業生を除く)		15	47	235,000
参考：現教員(卒業生を含む)		(23)	(69)	(345,000)
元教員(卒業生を除く)		18	56	280,000
参考：元教員(卒業生を含む)		(37)	(150)	(750,000)
合 計		421	1,156	5,777,910

注) \*1 土木工学科(都市基盤工学科)、\*2 生物応用化学科(バイオ工学科)

寄付者のご芳名は、匿名希望の方を除き中間報告(2010年2月ごろ)の際に掲載いたします。

## ●募金にご協力をお願い●

11月12日現在の寄付総額は、目標の3,000万円に対してかなり低い金額に留まっております。新規のご寄付のみならずすでにご寄付いただいている方からの増口のご寄付も含めて皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

### 募金要領

募金目標：3,000万円

募金単位：一口5,000円。できれば2口以上ご寄付いただけると幸いです。

募金期間：平成21年9月から平成22年8月末まで

送金方法：下記のいずれかの銀行口座にお振込みください。

三井住友銀行 阿倍野支店 普通 口座番号 7439042

名義「大阪市立大学工学部同窓会募金 会長 田守芳勝」

三菱東京UFJ銀行 阿倍野橋西支店 普通 口座番号 0015943

名義「大阪市立大学工学部同窓会募金 会長 田守芳勝」

りそな銀行 阿倍野橋支店 普通 口座番号 0135239

名義「大阪市立大学工学部同窓会募金」

ゆうちょ銀行 振替口座 口座番号 00900-7-303896

名義「大阪市立大学工学部同窓会募金」

なお、ご面倒ですが、振込金額、振込銀行名、振込日、学科、卒業年、氏名、住所などを振込連絡はがきにご記入いただき、ご投函くださるようお願いいたします。電話、FAX、Eメールで同窓会事務局にご連絡いただいても結構です。

趣意書、発起人名簿、振込連絡はがき、募金の進捗状況などは工学部同窓会のホームページ

URL <http://www.osaka-cu.com/kougakubu/>

に掲載しております。〔文責 東 恒雄(機械・昭和41年卒)〕

工学部・工学研究科に栄えあれ！

濱 裕光



1971年4月より電気工学科、情報工学科、電子情報系教員として本学工学部／工学研究科に38年間在職し、2009年3月に定年退職しました。先輩教授が次々に定年を迎え、去っていかれるのをさびしい思いで見えておりましたが、私にもその順番が回ってきました。4月からは新産

業創生研究センターのインキュベータで研究・教育を続けております。現役時代と変わらない忙しさと、最終直前の電車で飛び乗って帰宅しておりますが、時々にはへまをやらかします。三国ヶ丘で乗り換えるのですが、論文や本を読んでいて下を向きながらつつい到着した電車に乗ってしまうと「次は深井、深井～」のアナウンスでびっくり、深井ならまだよい方で「和泉中央」なんて聞くと「あれ！高野線にそんな駅、あったけ？」、後が大変です。泉北線の最終は高野線より早いので、当然戻る電車はありません。おかげでタクシーの運転手に同情してもらいながら、感謝されています。あわてものは一生直らないようです。

工学部・工学研究科のことはいつまでも気になっていきます。今年度中には削減計画が達成され、新規採用が可能になるはずですが、これからが大変です。工学系の教育・研究を活性化させるためには若手教員の採用は不可欠であり、今後は平均年齢が若返る方向で人事が進むことを祈っています。大学の使命である知の創造と継承を考えると、若手教員とベテラン教員の連携協力なしでは効率の悪いものになります。個人之力だけではこの激しい競争に打ち勝つのは大変で、これからの時代は『学際、連携』をキーワードにして、力を結集していくことが大事だと思っています。教員削減に伴って工学部・工学研究科の教員組織は、弱体化していますが、放置するのではなく、今こそ将来ビジョンを持って立て直し、明るく夢のある未来を築いていってください。

末筆ながら、工学部同窓会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(大阪市立大学名誉教授・元工学研究科教授)

工学部のJABEE認定の現状

JABEE認定は、日本技術者教育認定機構（JABEE）がカリキュラム・教育方法・教員組織・教育環境・教育成果などの外部機関による評価に基づいて「教育プログラムが国際的に通用する技術者を育成できる水準を満たしていること」を認定する制度です。

工学部では平成21年現在、下記の8学科の教育プログラムが基準適合と認定されています。

機械工学科、電気工学科、応用化学科、建築学科、都市基盤工学科、応用物理学科、知的材料工学科、環境都市工学科

定年前後の日常を振り返って

北田 俊行



大学教授の定年最終年度の多忙さは、どこの大学でも似たようなものと思われる。参考までに、私の場合の概要をまとめて、寄稿とさせていただきたい。

最終年度には、大学内、学部内、および学科内の各種委員は免除してもらえた。したがって主な仕事は、教育・研究

と社会貢献である。教育・研究では、特に、博士論文をまとめつつある学生や社会人の指導が大きなウエイトを占める。最終年度に私が主査で博士の学位を受理された人は5人であった。しかし、3人の未取得者を残した。

どの先生も同じであると思われるが、毎年、ほとんど有給休暇を取れないのが普通である。退職に際して、長年使わせていただいた部屋を整理して空け渡すのも大きな仕事である。長年の教育・研究で部屋には思い出のある資料がぎっしりと詰まっていて、3月末までに整理できるか不安であった。この整理のために、有給休暇を利用できないかと考えた。しかし、とても無理であった。多忙なスケジュールのなかであったが、最後はダンボールに詰めてしまうことになったが、何とか部屋の空け渡しを終えることができた。最終年度も含めて3年間の科学研究費基盤研究Aの代表者になっている関係で、この研究期間の間は、大阪市立大学名誉教授以外に、工学研究科の客員教授としての立場も与えられ、その関係で定年後も研究室の中に私の部屋を用意していただいた。そこで、ダンボールの資料はそのままこの部屋に押し込むことになった。

教育に関しては3月末できっちりと引退することができた。しかし、研究活動や社会活動は継続しており、退職後もなかなか終わらなかった。

定年退職までは、なんとか健康で定年を迎えたいと強く願っていた。しかし、退職してしまうと、今まで真剣に取り組んできた専門分野や大きな変革期にある大学のことにあまり感心がなくなってきたのは以外であった。定年後、新しい職場に移られる人も以前は多かったが、最近は少なくなっている。私の場合、特にお誘いもなかったが、再就職すればかえってご迷惑をおかけするし、定年後は専門以外のことをしたいと思っていた関係で再就職は考えなかった。定年前に超多忙な生活になれてしまっていたため、定年後、期限や目標がなくなると不安を感じる今日このごろである。

(大阪市立大学名誉教授、元工学研究科教授・現工学研究科客員教授)

表紙作者の略歴

題名は「京都嵯峨野の秋」

1941年：大阪市生まれ

1963年：大阪市立大学 工学部土木工学科 卒業

1982年：大阪市立大学 工学部土木工学科 教授に就任

2004年：同上を定年退職・大阪市立大学名誉教授

2008年：大阪市立大学学友会事務局長・現在に至る

## 機械工学科の近況

西村 伸也



卒業生の皆様にはご健勝にて活躍のこととお喜び申し上げます。今年3月には28名が卒業しました。そのうち4名が就職し、22名が本学大学院に進学、2名が他大学大学院に進学しました。一方、4月には工学部学科再編により機械工学科と知的材料工学科が統合された新しい機

械工学科に56名の新生が入学してきました。なお、現在の2回生が卒業を迎える平成23年度までは従来通りの機械工学科、知的材料工学科の教育プログラムも継続され、それぞれの学科の卒業生として学窓を巣立つ予定です。採用活動などで来学される卒業生の皆様にはご留意のほど、よろしくお願い致します。

さて、今年就職状況についてですが、昨年10月のリーマンショックを契機とした世界的な景気後退の波を受け、学校推薦枠をいただいた件数、また1件当たり的人数とも減るなかで、就職希望者ほぼ全員の内定が決まりました。これもひとえに卒業生の皆様のご支援・ご協力の賜物と深く感謝しております。来年度の就職活動に際しましても、本年同様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に教員の動向を報告しておきます。本年10月に熱工学分野の伊與田浩志講師と生産加工工学分野の川上洋司講師が准教授に承認されました。一方で、来年3月をもって動力システム工学分野の脇坂知行教授が定年でご退職の予定です。大阪市の財政事情が厳しい折、新規の教員採用が困難ですので、残された教員で学科を運営していかなければなりません。卒業生の皆様には、これまで非常勤講師を始めとして学科の教育に多大なるご支援・ご協力を賜ってまいりましたが、今後、より一層のご支援のほど、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、卒業生の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

(工学研究科教授・機械工学科(新・旧)主任教授)

## 卒業してからの38年

森 重道



昭和47年に機械工学科を卒業して38年、杉本町のキャンパスでの4年間は良い思い出として残っています。最近は卒業生の多くが院に進んでいるようですが、当時は殆どが就職であり、皆がメーカーに就職する中、私は商社に就職し、

ずっと機械関係の輸出又は輸入の営業に關っていました。大阪3年で東京に移り、暫くしてブラジル6年半、又東京に戻り3年後、今度はエジプトで5年。その後ジェトロに出向してオランダでの3年間はオランダ経済省で、オランダ企業の日本進出の相談に乗っていました。オランダから戻り平成17年始めにあるメーカーの貿易部門に転職

しましたが、ある時急に思い立ち、大阪府の商工労働部に再度転職し、地方公務員として外資誘致の仕事に携わりました。60歳になり又民間に戻り今は外資の日本法人で仕事をしています。今まで訪れた国は約30カ国。様々な経験をしましたが、共通項は外国と英語でした。仕事の同僚又は相手先から工学部出身とは思われず、「実は……」と言うと殆どの方は意外な顔をします。このやり取りは私のささやかな楽しみの一つでもあります。尤もつい最近、ある勉強会で機械の知識が必要になった時の私の発言を捉え、私が理系だと知っている文系の人から後で「理系の方はやはり機械に対するセンスが違う」とおだてられ、別の楽しみが増えました。やっぱり、機械工学科で勉強した事は良かったと改めて思っているこのごろです。(機械・昭和47年卒・兼松(株))

## 近況報告

綾 亨



日の入りの時間が日に日に早まり、吹く風も段々冷たくなってきたこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。平成14年に大学院を修了してから8年が経とうとしています。私は現在、電器メーカーでエアコン用コンプレッサ(圧縮機)の設計を行っています。

コンプレッサといえば、エアコンの冷凍サイクルを構成する部品の中でも最も重要なものの一つであり、車で例えるとエンジンに相当します。このコンプレッサの開発部門に配属されてから2年ほどは、開発機種の評価業務を行っていました。この間、製品の品質保証に対する考え方、システム等を勉強し、その後現在に至るまで新規開発製品の設計業務を行っています。世界的に環境意識の高まる中、エアコンに対する省エネ性能の要求は年々厳しくなっており、コンプレッサの高効率化は空調業界での至上命題となっています。私の担当する製品も高効率化の要求レベルは高く、また低コスト化の要求も厳しいため、四苦八苦の毎日が続いています。良い商品を世に出して省エネに少しでも貢献できればと思う次第です。

最後になりましたが、お世話になった先生方、卒業生の皆様の益々の発展を心よりお祈りいたします。

(機械・平成12年卒・同14年前期博士課程修了・パナソニック(株))

## 近況報告

菅原 勢也



みなさん、いかがお過ごしでしょうか。私は大学院を卒業して5年が経ちました。この度、同窓会報の寄稿の依頼があり、大学時代のことを思い出しました。当時、テスト前などは友人と一緒に学術情報総合センターで勉強したり、研究室のメンバーと夜食を食べながら資料

を作ったりしていました。とても懐かしく思います。みんな進路は違いますが、今でも頑張っていることでしょう。

私は大学卒業後、電力会社でまず、変電所の設備の巡視や補修業務に就きました。入社した平成16年は台風がとても多く、塩害による事故未然防止のために変電所の設備に水をかけたり、電気設備の浸水防止のために緊急用の排水ポンプで対応したり、と忙しい毎日でした。大学時代に学んだ機械工学の知識とともに、仕事の中で電気工学の勉強も行い、業務に活かしています。

今では変電設備の取替工事の工事担当者として設計業務をしています。メーカーや電気工事業者等との打合せを大事に

し、電気の安定供給のために頑張っています。工事の着工から取替設備の運開まで、自分が担当した工事のことで、時には不安やプレッシャーを感じることもあります。工事を無事終えることが出来たときはホッとするとともに、とてもやりがいを感じます。今後は自分の業務を通して、どのように地球環境問題に貢献できるか考え、行動していきたいと思えます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

(機械・平成14年卒・同16年前期博士課程修了・関西電力㈱)

## 電気工学科

### 電気工学科の近況

會田 田人



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

3年ぶりに電気工学科の主任を仰せつかっております會田と申します。

既にご存じのことと思われそうですが、今年度から工学部の学科再編が始まりました。電子情報系専攻は、電子・物理工学

科と情報工学科の2学科体制で1回生を迎えました。電気工学科の5分野も、この2つの新学科それぞれに2分野と3分野に分かれて所属することになりました。しかし、従来の電気工学、応用物理学、情報工学の3講座体制も生きており、2回生以上の電気工学科では従来のカリキュラムで教育が行われています。このように新旧2体制が混在する過渡期がありますが、徐々に時代の要求に合った教育・研究体制を創って行きたいと思えます。

ここ数年に渡る人事凍結の影響が大きい中、東京理科大学より大島昭子先生を材料計測工学分野の特任准教授として迎えることができました。現在、電気工学科の教員は、電磁気学分野（南、武智）、電子回路学分野（會田、高橋）、光電子工学分野（向井、宮崎）、材料計測工学分野（草開、大島、田中）、電磁機器工学分野（辻本、村治）の11名で教育研究を進めています。

今年度の学部卒業予定のうち大学院進学希望者は25名で、21名が前期博士課程に合格しました。その内2名は他大学院にも合格しています。一方、後期博士課程については進学者が少なく、社会人1名という状況です。

今年の就職については、リーマンショックの影響で求人数がここ数年の半分以下に落ち込む厳しいものとなりましたが、今年度卒業予定の修士18名と学部10名の殆どが内定を得ています。

末筆ながら皆様のご発展をお祈り致します。

(工学研究科教授・電気工学科主任教授)

### 近況報告

大川 宏明



昭和63年電気工学科卒の大川と申します。在学中はオーケストラで楽器ばかり弾いており、卒業後も学部とは全く疎遠でしたが、数年前に仕事の関係で同窓生と出会い、そこから懐かしい面々との付き合いが始まったのが縁で、今回の原稿執筆依頼をいただいた次第です。

卒業後は㈱毎日放送に就職し、主に制作技術でテレビ音声技術の仕事に携わってきました。入社して20年という月日が流れましたが、ずいぶん周りの環境も変化しました。入社したころはいわゆるバブル景気全盛のころで不景気ということとは無縁でしたが、昨今の世界的な不況の波は例外なく放送業界にも訪れており、収益が伸び悩んでいます。その要因はいくつかあるのですが、その一つにデジタル化のための設備投資があります。ご存知のとおり、2011年にはアナログの放送波が停波される予定です。放送業界にとって地デジ化はラジオ、テレビの開局に次ぐ第3の開局とも言えるほどの大事業となっています。もうひとつ我々の環境を大きく変えたのは急速なインターネットの普及があります。広告メディアとしてインターネットを無視できなくなってきており、動画配信や権利問題など放送メディアがインターネットといかに共存していくかも今後の大きな課題となっています。そんな中、いかに良質の番組を送出するかということをおぼろげに考えさせられています。

(電気・昭和63年卒・毎日放送㈱)

[次のページへつづく]

## 近況報告

城戸 琢磨



工学部同窓会が設立50周年を迎えるにあたり、その一員であることを誇りに思うとともに、半世紀の長きに亘り組織を維持された諸先輩方の功績に敬意を表します。

さて、私の近況について報告します。

就職後は一貫してコンピューターハードウェアの設計に携わってきましたが、5年前に大阪市阿倍野区の本社に転勤となり、情報セキュリティに関わる仕事に従事しております。毎朝、学生時代と同じように、JR阪和線で通勤することが楽しみの一つです。

企業では情報機器の不注意な利用による情報漏えい事件が

頻発しています。また、社会に目を向けると、子どもの携帯電話利用など、情報機器の使い方に関与する様々な社会問題が起きています。近年の情報・通信技術の進歩は著しく、それを利用する社会制度が追従できていない状況にあると考えます。全ての人々が情報機器を安心して利用できる社会を目指して、企業人として何ができるかを日々模索しています。

卒業後20年余りの年月が経ち、同窓生と顔をあわせる機会も増えてきました。皆、40代半ばの働き盛りであり、子育ても一段落し、生活に少し余裕もでてきました。本学同窓生に共通していえることは、仕事、家庭、社会のバランスのとれた良き市民であるということです。

変化の求められる時代であるため、平成21年度の学科再編により「電気工学科」の名前が消えたことには寂しさを感じますが、工学部のますますの発展をお祈りいたします。

(電気・昭和63年卒・シャープ(株))

## 応用化学科

### 応用化学科の近況

圓藤 紀代司



卒業生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年度の応用化学科主任を仰せつかっております。本学教員となって長くなりましたが、その間に応用化学科の教員数も減少し、現在は9名の専任教員と1名の特任教員で教育研究体制を受け持っています。教員の

数にかかわらず、各教員は各々の分野の第一線で活躍しています。

すでにご存知かも知れませんが、本年4月に応用化学科とバイオ工学科が統合され化学バイオ工学科として出発しました。一学年の定員が56名となりました。学科統合による課題も抱えていますが、統合によるメリットを生かし、学生が入学してよかったと思える化学バイオ工学科を目指した教育研究体制を築いていかなければならないと考えています。

学部学生の進学に関しては、他大学への進学者もあります。大半の学生が本学大学院の化学生物系専攻の修士課程へ進学し各分野での研究に励んでいます。後期博士課程の進学者についても今後増加していくことを期待しています。平成14年の工学研究科の再編以降、後期博士課程の社会人入学制度を利用されている方がいます。すでに企業に就職されているが博士号取得をと思われている方は、この制度を利用されることを希望します。一方、学生・院生の就職に関しては、昨秋のリーマンショックからの経済悪化による影響を受け、就職戦線もこれまでにない厳しい状況が続いています。

このような近況ですが、新しく発足した化学バイオ工学科の発展を目指して努力していくつもりです。卒業生皆様のご指導・ご鞭撻を宜しく申し上げます。

(工学研究科教授・化学生物系専攻長兼応用化学科主任)

### 「卒業して25年 ～ Pay it Forward ～」

武藤 明徳



同窓会50周年おめでとうございます。私も同じ歳であることに気がつきました。改めて思うと学生時代にご指導いただいた先生と同じ歳あるいは、年上になりました。私なんかは同業ですので、感無量な気持ちになります。

当時は今より世間全体が良い意味でのんびりした感じで、先生方も学生と接する時間が多かったと思います。学生は配属先以外の研究室にも自由に出入りすることが許される雰囲気があって、ほとんどの先生方は気安く研究のことから人生論までつき合ってください、夕方には毎日のように一緒にグラウンドをジョギングもしました。

いろいろな学びの中で多くの先生方は、「感謝するなら、その気持ちを若い人に返すように」と、当時若いわれわれにおっしゃっていました。最近の言葉でいうと、映画のタイトルにもなった「Pay it Forward」が一番近いと思います。学生時代の影響は大きく、私も今がその時期と「Pay it Forward」の心をもって若い人とできるだけ親身に付きあっています。

市大生は人数が少なく、社会では同期生や同窓生が希少なだけにそのつながりは強いように思いますし、そうありたいと願っています。同期会は「Pay it Forward」のヨコ方向の受け皿です。私たちは25年間、年末に集まって人的ネットワークをつなぎ続けています。また、同窓会はタテ方向の受け皿です。今後も大学とともに発展することを願っています。

(応化・昭和57年卒・同59年前期博士課程修了・岡山大学大学院・准教授)

[次のページへつづく]

## 近況報告

藤田 剛史



今年もいよいよ残りわずかとなってしまいましたが、応用化学科をご卒業されたみなさまにはお元気でお過ごしのことと存じます。

私が長崎に来てあつという間に七年が過ぎようとしております。運よく長崎大学歯学部編入で、歯学部生のときから生体材料工学（歯学部旧歯科理工学）で研究していたこともあり、現在は長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生体材料工学分野で働いております。応用化学科では、米澤義朗先生と米谷紀嗣先生のご指導のもと工業物理化学分野で金属ナノ微粒子の研究に従事することができました。この経験を生体材料工学分野に活かすべく、今年度から金属アレルギーの発症メカニズムに関する研究を行っています。

長崎大学は日本の最西端にある総合大学です。国立大学法人になってから研究費など厳しい面もありますが、西洋医学

発祥の地である長崎大学では様々な研究が行われています。代表的な研究は、熱帯医学や原爆の人体に及ぼす影響等に関する研究です。また特徴のある教育として、医学部、歯学部の学生が長崎に多くある離島に出向き、臨床実習を行うことで離島の医療現場を体験したり、また昨年ノーベル化学賞を受賞された下村脩先生（薬学部）の出身大学ということもあり、“未来の科学者発掘プロジェクト”が今年度から始まりました。これは小学生から高校生まで、興味ある学部で研究の一端に触れることを目的としております。我が研究室も六名の高校生が生体材料の実験を行いました。地方大学であります、特徴を大いに活かし長崎大学は研究教育に励んでおります。私も長崎大学の研究教育者としてこれからも懸命にがんばっていくつもりです。

年末ご多忙のおりではございますが、応用化学科ご卒業のみなさまにはどうぞおすこやかに新年をお迎えになられますよう、お祈り申し上げます。

（応化・平成12年卒・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・助教）

## 建築学科

### 建築学科の近況

谷口 与史也



建設業界に大きく影響するようなニュースが、国の内外において飛び交っておりますが、卒業生の皆様にはますますお元気で、粉骨砕身して活躍されていることと存じます。

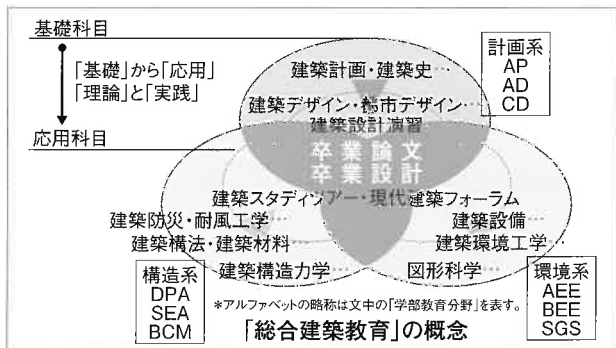
さて、工学部は10年間の10学科体制から新たに6学科体制となり新建築学科としてスタートしております。定員は28名から34名となり、36（内女性9）名が入学しました。合わせて関連学科からの教員も教育に携わることになり、研究分野はこれまでの建築防災（Disaster Prevention for Arch.）、建築構造学（Structural Eng. for Arch.）、建築環境工学（Architectural Environmental Eng.）、建築計画（Architectural Planning）、建築デザイン

（Architectural Design）の5つですが、学部教育分野として建築構法及び材料（Building Constr. and Mat.）、建築設備（Building Equipment Eng.）、空間図形科学（Spatial and Graphic Sci.）、コミュニティデザイン（Community Design）の4つを加えて9分野を構成し、より充実した総合教育を実施しています。また大学院では、建築士受験資格の実務経験見直しによりインターンシップ科目が始まり修士1年生は夏休みも返上で取り組んでおり、卒業生の皆様にはたいへんお世話になっております。

学部4年生の進路状況では、27名のうち本学大学院進学11、ゼネコン4、ハウスメーカー3、設計事務所1、設備1、他大学大学院進学2の22名が内定しております。今年は大学院入試で近年の傾向が顕著になり外部からの受験生が急増し、実質倍率2を大幅に超え、本学の受験生は大きな影響を受けました。このような状況が継続するのかどうかとても心配しております。それに対して後期博士課程への入学者数は伸び悩んでおります。そこで大学院の定員を見直し、今年度から後期博士課程の定員減、前期博士課程は定員増としました。さらに、3年分の授業料で最長6年の間に学位取得を目指す長期履修制度も整いました。これを機に皆様も母校でのキャリアアップを是非ご検討ください。

最後に誠に残念ですが、名誉教授でもあり本学に多くのご尽力を賜りました川村純夫先生が平成21年8月16日に逝去され、構造系卒業生を中心に、お別れ会が9月29日に執り行われました。ここに改めてご報告するとともにご冥福をお祈り申し上げます。

（工学研究科教授・都市系専攻長兼建築学科主任）





## 近況報告

酒井 沢栄



学部から前期・後期博士課程まで10年間市大で過ごし、その後、建設コンサルタント会社に入社しました。現在では同会社の東京事務所に勤務しています。

会社では、自治体単位での土地利用や建築制度の調査研究、各種行政計画の策定、地区単位での住環境整備等に関わる計画設計など、主に都市計画に係るコンサルタント業務を幅広く行っています。また、私自身の関わる現場は、東京都内や関東圏内だけでなく、地方での業務も多く、いろいろな地域をまわっています。

特にこの仕事に就いてから、専ら「歴史を活かしたまちづくり」に関わる業務に携わっています。美しい国づくりや観光立国といった国の政策の影響もあるでしょうが、各地域で、地域ならではの資源を活かすという取り組みが広がっているように感じます。ただ、これを検討していく上で、都市計画や建築等の制度上の問題もありますが、歴史的価値と経済的効率性を求めるもののギャップが常につきまとう、と感じています。少しずつ法制度が整備され、歴史的な環境を活かしやすくなるにつつありますが、ただ、こうした課題をどうクリアしていくか、どう実現するか、ということを地域と一緒に検討するのが私にとっては非常に楽しく、やりがいがあります。今の仕事にそう感じつつも、新政権になってどうなることやら。

(建築・平成6年卒・同8年前期博士課程修了・㈱都市環境研究所)

## 近況報告

中村 良平



卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成20年3月に大学院を修了してはや1年半が経過し、部活や研究に精を出した学生時代を懐かしく思う今日この頃です。

私は現在、建設会社の技術研究所に勤めています。自社で建設する建築物の耐風設計に必要な風外力などを風洞実験で算定することが主な業務です。1年の研修期間が終了し、入社2年目の今年から風洞実験の担当者としてプロジェクトに携わっています。建築物の安全性に関わることなので責任を重く感じています。同時に仕事としてのやりがいも感じています。また、建築物と風に関する研究開発を業務と平行して行っています。業務の合間など、自分自身でその時間を確保しなければならぬため、自主的な時間管理が求められます。昔から比較的時間にルーズだった私にとっては、自分で適切なスケジュールを立て、確実に遂行していく習慣を身に付けることが大切だと実感しています。

建設業界は、公共事業の大幅な削減の影響などにより、将来的に非常に厳しい時代を迎えることが予想されます。そのような中でも自分を見失わず、常に向上心をもって努めていきたいと思っています。最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(建築・平成18年卒・同20年前期博士課程修了・大成建設(株))

## 都市基盤工学科

### 都市基盤工学科の近況

都市基盤工学科主任教授 大内 一



民主党政権に変わり、公共工事発注削減が加速する中で卒業生の皆さんは厳しい時をお過ごしのことと推察いたします。私は昨年度後半より学科主任を仰せつかっております。

まずは、都市基盤工学科の近況です。

昨年もお知らせしていますが、学部再編により10学科体制から6学科体制に移行段階にあります。従来の都市基盤工学科は環境都市工学科と合体し本年4月より「都市学科」として50名定員の新しい1回生を迎えました。現2～4回生は都市基盤工学科ですが、彼らが卒業する2年余り後には、都市学科に完全移行致します。卒業後の人的ネットワークも重要であり、今後の同窓会が発展的に変化していく

ようご協力ご支援をお願い致します。

人事ですが、我国橋梁工学分野の指導者として長年ご活躍された北田俊行教授が本年3月末に定年退職されました。そして、4月からは山口隆司准教授が後任教授に就任されました。研究科レベルにまで目を上げますと、日野教授が4月より副研究科長として工学研究科の運営に尽力されております。一方、海外交流に目を転じると、松村政秀講師が昨年11月末よりイタリアのパビア工科大学に長期出張を終え、8月に帰着されました。

本年度の進学予定および就職内定状況ですが、4回生については、進学は18名、地方公務員1名、民間4名(コンサル2、橋梁メーカー1、ゼネコン1)、未定5名です。大学院2回生の内定状況ですが、後期博士課程進学が1名、鉄道1名、ガス1名、民間9名(橋梁メーカー4、住宅メーカー1、ゼネコン2、その他2)、未定1名です。母校および後輩の将来のため、今後もご協力ご支援いただけると幸いです。

## 近況報告

大杉 朗隆



同期は38歳前後、働き盛りということ  
で、家庭と職場に追い回され、同期会な  
どで旧交をなごとも…(だと思いま  
す。)ここは、やはり私の誇りでありま  
す「将来有望な下水道事業(の中の私)」  
を紹介しようと思います。

下水道は、都市の内水排除と衛生環境  
の保持を担っています。地味な役割で滅多に市民の目には映  
りません。しかし、水、エネルギー、希少価値のある物質の  
「循環」においては、まさに主役を演じるにふさわしい事業  
なのです。下水道は、汚れた水をきれいにして川や海に返す  
だけでなく、それが同時に都市河川の水源となり、潤いある  
まちづくりに貢献しています。また、下水汚泥から生じる消  
化ガスは、現在は、下水処理場に限られたエネルギー源では  
ありますが、カーボンニュートラルという特性から、将来広  
く普及するエネルギー源となるが見込まれています。また下  
水汚泥からは他にも、昨今枯渇が懸念されている「りん  
(肥料の原料)」が回収できたり、諏訪湖近辺の処理場では、  
「金」が回収できたりもしています。このような、夢の  
ある事業に携わらせていただいている幸せな私です。がしか  
し、毎日、「来週重要な打ち合わせがある。」「明日締め切り  
の業務はなんだ。」「昼までに資料を要求されている。」など  
と言い、言われながら、(幸いなことに)廻ってくる仕事を  
をさらに廻すことに精一杯の私でもあるのです。(以上、自  
慢と愚痴でした。)

(土木・平成6年卒業・同8年前期博士課程修了・大阪市役  
所)

## 近況報告

館 健一



平成16年の3月に土木工学科を卒業  
し、同4月からは建設会社に勤務してい  
ます。入社後、4年間は大阪府東大阪市  
において、鉄道高架化工事の現場で施工  
管理をしていました。この高架化工事  
では、発注者に1名、隣接工区・近隣工区  
に2名の土木工学科の先輩がおられ、学

部を卒業したの私にとっては非常に心強かったことを思い  
出します。工期の途中で転勤になってしまいましたが、ま  
もなく片線が高架化されるということで、自らが関わった構造  
物を利用できるという初めての経験ができることを楽しみに  
しています。

昨年の春からは現場から常設部門へと異動になりました。  
日々、パソコンと格闘しながら解析業務や総合評価落札方式  
の技術提案書の作成をしています。常設部門に移ってからは、  
学生時代にもっと真面目に勉強をしていればと後悔しつ  
つ、学生時代の教科書を必死に読む毎日です。また、時代の  
流れに吞まれて技術提案書を作成にも携わっていますが、答  
えというものが無い中、いろいろな意味でとても難しいと感  
じています。

昨年末には、学科の就職ガイダンスにお呼びいただき、建  
設業の概要を説明させていただく機会や、大島准教授の講演に  
参加させていただく機会、卒業論文をご指導いただいた鬼頭准  
教授と研究室のメンバーでお会いする機会などがあり、卒業  
後も繋がりがあがることをうれしく思っています。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を心よ  
りお祈り申し上げます。(土木・平成16年卒・大林組(株))

## 応用物理学科

### 応用物理学科の近況

寺井 章



卒業生の皆様、お元気にお過ごしのこと  
と思います。

政治の世界では政権交代が起きました  
が、今度の内閣は珍しく理系出身者が  
主要ポストを占めています。鳩山由紀夫  
首相は東京大学工学部の計数工学科出身  
ですが、この計数工学科というのは応用  
物理学科から分離した学科です。菅直人国家戦略担当大臣は  
東京工業大学理学部の応用物理学科出身とのことです。理系  
人間の冷静な判断力と柔軟な思考力で、国内外の難題を解決  
して欲しいものです。

当学科の方に目を転じますと、応用物理学科3回生の瀧田  
佑馬君が飛び級で本学大学院の入学試験に見事合格しまし  
た。飛び級制度は数年前に出来ていたのですが、応用物理学  
科では初めてのケースです。大学院では応用分光計測学研  
究室の熊谷寛教授の下で研究することになっています。高校時

代は硬式野球部に所属していた文武両道の好漢なので将来が  
楽しみです。

昨年の金融危機にともない、世間では就職氷河期の再来か  
と言われておりましたが、応用物理学科の研究室に所属する  
4回生と修士2回生については、就職希望者のほぼ全員が就  
職内定を受けることができました。これには学生諸君の努力  
もありますが、OBの皆様のお力添えと就職担当の小林中先  
生のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

さて、昨年の同窓会だよりもありましたように、今年の  
4月に応用物理学科としての学生募集は停止して、あらたに  
電子・物理工学科の1回生42名を迎えました。1回生の専門  
科目の講義は少ないので詳しくはわかりませんが、高い競争  
率を勝ち抜いて入学したので、やる気のある学生が多いよう  
です。彼らとともに電子・物理工学科のスタッフ一同も成長  
していきたいと考えておりますので、従前にも増してOBの  
皆様方の御指導・御支援をよろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、卒業生の皆様にご健勝をお祈り申し  
上げます。

(工学研究科教授・電子情報系専攻長兼応用物理学科主任)

## 近況報告

### 三好 隆



皆様、いかがお過ごしでしょうか？気が付けば大学を卒業してから10年、修士課程を修了してからも8年が経過しました。現在私は生まれ故郷である四国の半導体メーカーで仕事をしております。大阪での都会暮らしから一転、再び田舎暮らしに戻ることにしたのですが、四国

は海や山の自然が身近にあり、のんびりした良いところです。また趣味であるゴルフやバイクツーリングが気軽に楽しめる環境も田舎ならではのものです。

さて現在私は半導体レーザーの開発に関わる仕事をしているのですが、この分野は学生の頃に学んだ光物性の知識が大きく生かされる場であり、今でも当時使用していた本やノートを参照することが度々です。また基本的に世の中に無いものを作る仕事は、大学での研究に似たところがあります。それは実験等で得られた結果を分析、解釈し、次にどの方向に向いて物事を進めるべきかという判断が重要という点です。これを正しい方向に持っていくには人の意見と自分の考えを総合的にとらえ、判断することが必要とされますが、この考えの基本はやはり大学、特に研究室での経験が大きく生かされています。とはいえ学生当時は教授の言うことを聞かず、自分の考えだけで実験を進めてよく失敗したという経験ですが、それもまた私にとってはよい経験でした。最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

(応物・平成11年卒・同13年前期博士課程修了・日亜化学工業(株))

## 学生から社会人へ

### 小村 慎吾



皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は、昨年3月修士を修了し、社会人の第一歩を踏み出しました。学生時代の実験やゼミを通じて、応用物理学の先生方や仲間と過ごした日々を、つい昨日のことのように思い出します。会社という新たな環境下で、半人前ながら濃密な日々

を過ごしています。私は、某印刷会社の研究所でエネルギー関連の職に就いてから1年半が経ちました。大学、企業問わず、新しいことを成し遂げるためには、幅広い知識と応用力が必要です。日々、自分の力不足を痛感しながらも周囲の助けを借りて業務をこなしています。

一言に研究といっても、大学と企業で、環境や目的の違いは少なからずあります。しかし、取り組む際のベースとなる考え方には、多くの共通点を感じます。目的を達成するために、枠にとらわれない手法を考案し、実験、得られた事象を客観的に観察、論理的な考察を基にさらに新たな手法を模索する。これらは多くの技術的職業に共通し、大学での日々がまさにその礎となるのではないかと考えています。

学生の皆様におかれましては、先生方や仲間達と切磋琢磨の日々を送られていることと思います。この貴重な数年間を余力を残さず勉学にスポーツに何事にも全力で取り組んでください。若さと活力は今しか使えない財産です。

最後に、今後の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

(応物・平成18年卒・同20年前期博士課程修了・大日本印刷(株))

## 情報工学科

### 情報工学科の近況

#### 岡 育生



平成2年に1学年15名でスタートした情報工学科は、改組に伴い本年4月には42名の新生を迎えました。新生には、4年前から4月に1泊2日の研修旅行を実施しています。本年は日程の都合により大学キャンパスでの研修としました。学術総合情報センター内ウィステリア

アで懇親会を行い、新生の夢とそれを実現するための大学の役割について話がはずみました。学生数は倍増しても、少数精鋭の教育・研究指導体制を堅持しています。今年発足した新「情報工学科」は、電気・電子回路、情報通信デバイス、コンピュータ、情報処理、通信、制御などの幅広い関連

技術を基礎とするとともに、次世代の高度情報化社会の実現を目指し、新設計コンセプトに基づく情報技術を開拓できる自立した技術者・研究者の育成を目標としています。電気工学科の會田田人教授、向井孝彰教授、辻本浩章教授、高橋秀也准教授、宮崎大介准教授、ならびに、これまでの情報工学科の10名の教員が所属しています。この3月に濱裕光研究科長ならびに平井誠准教授が退職されましたが、現在、計8分野で15名のスタッフからなる充実した学科となっています。また、恒例の学部2年生を対象とした「論理設計作品コンテスト」が1月に開催され、優秀賞、チャレンジ賞、敢闘賞、あわせて11件の作品に賞状と賞金が授与されました。

最後になりましたが、皆様方の一層のご活躍とご発展をお祈りいたします。

(工学研究科教授・情報工学科(新、旧)主任教授)

## 近況報告

太井 優樹



みなさま、いかがお過ごしでしょうか。私は学部・修士過程を修了し、早くも2年が経とうとしています。

現在、私は家電の商品設計を行なっています。

会社に入って、自身の大きな変化を感じています。

主婦の方が出産・子育てがおちつき、大学に戻って勉強をしたいというような話しがよくあると聞きます。

学生の頃、勉強が好きなんて言う人は私を含め少なかったのですが、いざ勉強することが仕事であった学生を卒業すると、今は勉強がしたくてたまりません。おもしろいものです。

商品設計という仕事柄、常に新しいことを追いかけますので、ずっとずっと勉強です。ただ会社というところは学校ではないので、あまり1から教えてはくれません。

「習うより慣れろ」と昔の人はよく言ったものです。

勉強しなさいと言われてはできず、ひとたび勉強の意味がわかり必要と感じれば勉強がしたくてたまりません。

逆に当たり前ですが、社会人になって失ったものがあります。自由な時間です。

いま私は、通勤時間に本を読んだり、英語をヒアリングしたり、勉強にあてています。学生の頃にもっともっと勉強しておけばよかったと、つくづく感じる今日この頃です。

最後になりましたが、お世話になりました先生方、同じ工学部をご卒業された皆様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(情報・平成18年卒・同20年前期博士課程修了・ソニー(株))

## 近況報告

喜田 雅人



皆様、こんにちは。私は2009年の3月に前期博士課程を修了しました。現在、日本電気株式会社の新入社員として研修や担当業務に勤んでおります。仕事の内容は防衛事業の通信関係であり、具体的に言うと違法無線機の電波監視のための研究開発や自衛艦の受信機に関する設

計などであり、業務内容が直接的に社会貢献に結びついていますので、非常にやりがいを感じております。しかも、大学で研究していた分野が無線技術ということもあり、即戦力として扱われることも多いです。技術検討会の設定、研究資料作成、プレゼンテーションといった業務は研究室時代に培ったことがそのまま生かされており、学生時代にもっと勉強しておけば良かったと常々思います。また、最近の大きな仕事といえば特許を出願したことです。会社には海外に留学する制度もあるので、積極的に手を挙げ、社内外、国内外で色々な経験を積み、日々精進していきたいと思っております。

また、事業所が東京ということで住み慣れた大阪を離れ、初めて寮生活をしています。今年度の新入社員が非常に多いということもあり、寮では沢山の友人ができました。18歳から29歳まで様々な年代の友人たちとの意見交換は、私を成長させてくれるものであり、会社を盛り上げるための大事な時間でもあります。

最後になりましたが、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(情報・平成19年卒・同21年前期博士課程修了・日本電気(株))

## バイオ工学科

### バイオ工学科の近況報告

長崎 健



未曾有の不景気に始まり画期的な政権交代など歴史的一年であった2009年も師走となり残すところあと僅かとなりましたが、卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。1994年3月卒業の1期生から数えて15期生まで計283名を生物応用化学科生として世に送り出してきましたが、本年3月には初めてバイオ工学科卒業生23名を輩出しました。そして4月には4年後にはさらに新たな学科の初代卒業生となる58名の若人が化学バイオ工学科1期生として仲間入りしました。また、大嶋寛教授が工学研究科長として就任し、工学部の新たなページを開こうとしています。

新しい化学バイオ工学科では化学と生命科学を基盤とする基礎学力に優れる人材育成のみならずコミュニケーション能力ほか人間力養成にも力を注いでいます。そして特色有る初

年次教育の一環として9月には大阪府南部の淡輪で一泊二日の研修合宿を行いました。その際の写真をご披露します。写真から嗅ぎ取って頂けるかと思いますが、信頼と親睦を深めるのみならず、教育カリキュラムや研究生活、卒業後の進路などの説明はもとより、大学時代に身につけておいて欲しいことなど、教員・先輩からの熱いメッセージを伝えました。これら卒業生が近い将来日本の科学技術を支えるべく社会で活躍することを願ひ日々研究教育生活に勤んでおります。化学バイオ工学科になりましたも、皆さんが過ごした研究室は健在で、教員・学生一同一層の努力をしていきますので、諸先輩方には今後とも暖かいご支援とご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、卒業生の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

(工学研究科教授・バイオ工学科主任)



## 近況報告

西野 毅



皆様ご無沙汰しております。H20年3月に化学生物系専攻の修士課程を修了した西野です。皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は現在、社会人2年目であり、川崎重工のグループ会社で近年話題になっているバイオエタノールの製造実証プロジェクトに参画しております。大学の研究室では基礎研究を行っていましたが、今は研究ではなく、実証設備の設計業務を担当しています。在学中は設計に関する知識を学ぶ機会が限られていたため、入社当時は図面の知識や化学工学の知識

が全くといってないに等しく、非常に苦勞しましたが、努力の甲斐もあり、ようやく設計業務にも少しずつ慣れてきたところ です。

同期の大半は企業への就職を選択しましたが、企業で担当する業務が大学で研究していた分野と同じである人はごく一部であると思います。しかし、私は研究室では専門分野の知識だけでなく、困難な事柄に粘り強く取り組む姿勢を学ばせて頂いたため、異なる分野でもなんとか対応できたのだと感じております。

卒業して以来、同期全員が集まる機会はこれまでなかったため、全員が集まり学生の頃のように楽しく盛り上がる機会を作りたいと考えていますので、皆様ご期待下さい。

(生応化・平成18年卒、同20年前期博士課程修了・川崎プラントシステム㈱)

## 知的材料工学科

### 知的材料工学科の近況

横川 善之



卒業生の皆様には、お元気で活躍のことと存じます。昨年に引き続き、主任を仰せつかりました。よろしくお願ひ申し上げます。

近況についてご報告いたします。第七期生25名が卒業しました。11名が就職、その他は大学院へ進学しました。就職先

の企業は幅広い分野にまたがり、プロスポーツ選手になった学生もいます。教員では2010年3月に橋本敏教授が定年で退職の予定です。

今年度から学科再編に伴う“新”学科の学生が入学してきました。外国人1名を含む56名、うち女子は2名です。新入生が3年次になると、環境・エネルギー機械、システムダイナミクス、マテリアルデザインの3つの科目群のどれかを主として履修し、4年次から研究室に配属されます。“新”学科となっても、知的材料工学講座として、研究室の構成は変わりません。昨年度までの入学生、すなわち、2年次以上の学生は、従来の知的材料工学科のカリキュラムを履修し、工学部知的材料工学科卒業生になることも変わりません。この過渡期において、統廃合される科目や新たに創設される科目があります。統廃合される科目には新しいカリキュラムの科目との対応表を作成し、再履修でもこれまでと同様の履修が可能となるようにしています。

研究においては、従来通りの世界的なレベルを維持し、活発な研究発信を行っています。また、昨年、協定を結んだインドAnna大学から、小職は客員教授の称号を受けました。

時代とともに社会が変わり、大学もそれにつれて自らの変革が求められますが、「知的材料工学」講座が大阪市立大学工学部の材料教育・研究を担う役割は変わりません。卒業生の皆様には今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(工学研究科教授・機械物理系専攻長兼知的材料工学科主任教授)

### 近況報告

國樹 優輔



2008年3月に知的材料工学科を卒業し、前期博士課程機械物理系専攻に進学して1年と半年が過ぎました。現在は前期博士課程2回生として、材料数理工学研究室で日々研究に励んでおります。

学部生時代を思い出すと、私たちの学年は先生方に色々のご迷惑をおかけしたのではないかと申し訳ない気持ちになります。学生同士は仲がよく、テスト前に一緒に勉強したことや卒業旅行に行ったことなどを思い出します。卒業後も何度か集まる機会があり、今後も同期生とは定期的に集まれる関係を続けていけたらと思います。

私の近況は、この3月に前期博士課程の中間発表を行い、卒業に向けてより気持ちの引き締まる思いとなりました。またその後、卒業後の就職を目指し、就職活動をしておりました。不況といわれる状況の中で、同期生は次々と就職先を決めていきましたが、私自身はなかなか決まらず、焦りも感じておりました。しかし、6月には希望する企業から良い返事をいただくことができ、ほっとしました。10月には内定式にも無事出席することができました。進路も決まりましたので、安心してこれからより一層研究に打ち込んでいきたいと考えています。

今年度から学科再編により知的材料工学科は、機械工学科と合併しました。卒業生の一人としては出身学科の名称がなくなってしまうことは寂しい思いです。最後になりましたが、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(知的材料・平成20年卒・前期博士課程2回生)

環境都市工学科の近況

貫上 佳則



卒業生の皆さん、元気で活躍されていることと思います。昨秋以降の学科の近況についてご報告いたします。

今年の春に環境都市工学科第7期生26名が卒業し、15名が大学院に進学し、11名が社会に巣立って行きました。教員の異動はありませんが、来年3月には赤崎弘平教授がめでたくご定年を迎えられます。環境都市工学科設立当初からの先生が大学を離れられることは寂しい限りですが、今後は学外からご支援いただけるようお願いしたいと考えています。

おめでたい話題としては、中尾正喜教授が2009年度の日本建築学会賞を受賞され、同じく水谷聡准教授が2009年度の廃棄物資源循環学会奨励賞を受賞されました。また、昨秋に当時後期博士課程3年生であった石川愛さんが2008年度日本図学会大会研究奨励賞を、さらに前期博士課程1年の末永直之君が2008年度日本建築学会環境工学科会若手研究者交流会優秀プレゼン賞を、同じく前期博士課程1年の川崎太也君が第45回土木学会環境工学研究フォーラム優秀ポスター賞をそれぞれ受賞されています。

もう一つの大きな話題は、今年の4月から新しく「都市学科」が発足したことです。これまでの環境都市工学科と都市基盤工学科が発展的に合併して設置された新しい学科です。すでに環境都市づくりを担う若い50人の「1期生」が入学してきました。環境都市工学科を卒業された皆さんにとっては「環境都市工学科」の名称が無くなって寂しく感じられるかもしれませんが、新しい都市学科でより広い視野に立って環境都市づくりを担える若い研究者や技術者を育成していきますので、どうぞご支援ください。

最後に、皆様のご活躍と健康を祈念しております。  
(工学研究科教授・環境都市工学科主任教授)

近況報告

朝輝 千明



卒業生の皆様にはお元気で活躍されていることと存じます。私は平成20年3月に環境都市工学科を卒業し、今年の4月から大阪府豊中市で小学校教諭として働いています。

工学部とはまったく畑違いの業種で、なぜこのような道に進んだかというところ、大学3・4年時の就職活動がきっかけでした。初めて真剣に自分の将来を考え、自分が一生をかけてやりたいことは何なのかということに向き合い行き着いたのが小学校教諭の道でした。その時、両親・友人も私の選択に賛成してくれ、先生方にも温かく応援して下さいだったので大学卒業後に違う進路を選ぶという決断ができました。本当に感謝しています。

去年1年間通信制の大学で小学校教諭の免許の取得・採用試験の受験、そして今は小学校3年生の担任をしております。毎日がわからないことだらけで失敗の連続で、子どもたちもとても元気よく、元気すぎてしかることも一日に何度もあります。無我夢中で子どもたちと接し、仕事づけの毎日が半年何とか過ぎた…という感じです。しかし授業中見せる子どもたちのわかったときの生き生きとした笑顔や休み時間のかわいらしい一面をみると「この道を選んでよかったな」と思い、やる気も出てきます。とても楽しくお仕事をさせて頂き幸せだと感じています。

最近は小学校でも環境教育に力を入れており、ピオトップ・生態系など大学で学んだことも教鞭をとる上でとても役立っています。

(環境都市・平成20年卒・小学校教諭)

《 都市学科では「環境都市づくり」のプロフェッショナルを育成 》

都市をデザインする力  
都市の将来像の構想  
知性・感性・提案力  
都市の多様な役割

**都市デザイン**  
機能的で美しい  
都市づくり

都市計画  
景観デザイン  
都市空間設計



**環境創生**  
持続型環境都市  
の創出

環境生態  
環境影響評価  
リサイクル



**安全・防災**  
災害に強い  
都市の構築

構造デザイン  
都市防災計画  
耐震設計



**「環境都市  
づくり」  
のプロ**

プランナー  
エンジニア

持続型社会の構築  
人間活動と環境  
環境負荷を管理・低減  
自然との共生・創生

## 事務局年報 (2008・12～2009・11)

### 2008年 (平成20年)

12月 : 会報第24号の発送完了・事務局直接配布開始 (24日)

### 2009年 (平成21年)

1月 : 第20回評議員会開催通知を発送 (19日)。新保・志野両監事の会計監査 (20日)。第18期第9回理事会にて第20回評議員会の議案を検討・決定 (28日)。

2月 : 大阪弥生会館にて第20回評議員会を開催、第18期1年目 (2008年度) の経過と収支決算報告及び会計監査報告、会則の変更、第19期1年目 (2009年度) の新理事会役員・事業計画・予算を承認。その後の「工学部同窓会の集い」では、橋本朝日放送常勤顧問の講演を拝聴の後、懇親会を催し、恩師 (非会員) 2名を含む85名の同窓が絆を深め合った (20日)。

3月 : 平成21年度新入生への当会会則・案内・会報及び学友会入会要請書の配布を工学部事務室に依頼 (4日)。卒業・修了生宛送別文書と会費納入要請書の配布を各学科理事等に依頼。工学部大講義室における「工学部・工学研究科送別式 (学部卒業: 268名、前博修了: 197名、後博修了: 20名)」に田守会長、山田、小林両副会長及び理事有志が出席 (24日)。

4月 : 新入生への学友会入会受付支援 (2日) 2009年度入学式が大阪市中央体育館にて挙行される。 (6日)。第19期第1回理事会で、本年度の活動計画の具体化、特に工学部同窓会設立50周年記念募金関係についての検討 (6日)。

5月 : 第118回市大ポート祭に協賛アドバルーンを掲揚 (30、31日) 第1回50周年記念事業推進会議で2月評議員会決定事項の具体化を検討 (26日)。

6月 : 第2回50周年記念事業推進会議で決定事項具体化の詳細を検討 (3日)。同窓会活性化委員会で同窓会活性化の方策を討 (19日)。市大同窓会連絡会第1回運営委員会で本年度同窓会費の配分案・来年度以降の配分の在り方等を検討 (30日)。

7月 : 第8回ホームカミングデー第1回実行委員会で今年度の取組を検討 (10日)。第3回50周年記念事業推進会議で記念募金の実施を確認 (13日)。各学部同窓会幹部と市大幹部との懇談会が開催された (15日)。

8月 : 後博第19期第2回理事会及び第1回募金実行委員会で50周年記念事業を実行するための募金の開始、奨学金の新設を決定した (10日)。工学学術情報交流センターの夏季休館 (11～14日)。第1回募金幹事会の開催 (17日)。

9月 : 50周年記念募金趣意書等発送 (4日)。ITインフラ構築推進の打ち合わせ (11日)。第19期第3回理事会及び第2回募金実行委員会で設立50周年記念事業の取組状況の報告と、来年度からの工学部同窓会費の徴収方法について検討 (16日)。

10月 : 会長・名誉会長・定年恩師・学科主任・卒業生に会報25号原稿の依頼状を発送 (1日)。第8回ホームカミングデー案内状を理事・評議員を中心に送付 (8日)。

11月 : 第8回ホームカミングデー受付 (3日)。会報25号の初稿を開始 (12日)。

### (1) 第18期第2年度 (2008年1月～12月) 収支決算報告

#### (イ) 経常費収支決算表 (円)

収 入		支 出	
終身会費	2,769,000	会議費	193,060
預金利息	24,283	行事費	185,485
雑収入	0	会報	1,501,749
前期繰越	9,120,407	会員名簿	190,890
		協賛費	356,085
		渉外費	13,480
		通信費	72,165
		事務局費	2,908,260
		事務費	181,572
		備品費	289,674
		次期繰越	6,021,270
合 計	11,913,690	合 計	11,913,690

#### (ロ) 借貸対照表 (2008年12月末、円)

借 方		貸 方	
振替口座	924,664	累計剰余金	9,120,407
普通預金	3,706,140	当年剰余金	△3,099,137
定期預金	54,954,652	特別基金	53,564,186
合 計	59,585,456	合 計	59,585,456

### (2) 第19期第1年度 (2009年度1月～12月) 理事会役員

会 長: 田守芳勝 (物38)  
 副会長: 宮本万功 (機43)、山田文一郎 (化40)、杉本豊三 (電44)  
 小林俊明 (土44)  
 理 事: 下田隆二 (機29)、人見宗男 (機31)、南斎征夫 (機39)  
 東 恒雄 (機41)、笠上文男 (機50)、瀧山 武 (機59)  
 栗政幸一 (電31)、建部 渉 (電35)、行藤三男 (電36)  
 山口南海夫 (電44)、南 繁行 (電45)、前谷治男 (電51)  
 村治雅文 (電62)、近藤 紘一 (化37)、三刀基郷 (化39)  
 三浦洋三 (化42)、西口克彦 (化43)、大嶋 寛 (化49)  
 小河一真佐 (建26)、都築 周 (建29)、小島 弘 (建35)  
 溝神宏至朗 (建36)、貴志義昭 (建41)、坂 壽二 (建42)  
 赤崎弘平 (建45)、谷口徹郎 (建59)、井上 保 (土26)  
 園田恵一郎 (土36)、湊勝比古 (土41)、日野泰雄 (土50)  
 大島昭彦 (土55)、川上一夫 (物35)、島谷宏文 (物38)  
 柳川重昌 (物44)、和倉慎治 (物45)、宇佐美照夫 (物46)  
 大前秀治 (物56)  
 監 事: 新保市弘 (電35)、志野太一 (物40)

### (3) 第19期第1年度 (2009年1月～12月) 事業計画

- ① 会報第25号の12月上旬発行・配布。
- ② 工学部・全市大行事及び事業への協力。
- ③ 会員相互の親睦交流の促進。
- ④ 特別基金の運用と有効活用。
- ⑤ 設立50周年記念事業。

### (4) 第19期第1年度経常費予算 (円)

収 入		支 出	
終身会費	5,121,000	会議費	200,000
預金利息	24,000	行事費	200,000
雑収入	4,000	会報	1,600,000
前期繰越	6,021,270	会員名簿	300,000
		協賛費	360,000
		渉外費	20,000
		通信費	290,000
		事務局費	2,900,000
		備品費	200,000
		事務費	100,000
		次期繰越	5,210,270
合 計	11,170,270	合 計	11,170,270

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2009.10.1現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	都市基盤工学科	応用物理学科
西村 伸也 2664	南 繁行 2760	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	大内 一 2173	中山 正昭 2739
伊奥田浩志 2963	武智 誠次 2677	有吉 欽吾 2791	谷口 徹郎 2707	角掛 久雄 2723	金 大貴 3087
加藤 健司 2665	曾田 田人 2678	島中 康夫 2979	木内 龍彦 2706	山口 隆司 2765	中山 弘 3088
脇本 辰郎 2965	高橋 秀也 2679	南 達哉 2980	谷口与史也 2709	松村 政秀 2735	福田 常男 2738
川合 忠雄 2667	草開 稔 2681	園藤紀代司 2697	吉中 進 2708	東田 淳 2725	細田 誠 2742
藤田 勝久 2666	大島 昭子 2680	辻 幸一 3080	梅宮 典子 2710	大島 昭彦 2996	菜嶋 茂喜 3089
佐藤 嘉洋 2670	田中 健司 2975	米谷 紀嗣 2984	大倉 良司 2711	日野 泰雄 2730	熊谷 寛 2879
川上 洋司 2668	向井 孝彰 2792	松本 章一 2981	横山 俊祐 2199	内田 敬 3099	小林 中 3030
脇坂 知行 2671	宮崎 大介 2877	小島 誠也 2797	藤本 益美 2989	吉田 長裕 2731	寺井 章 2748
瀧山 武 2672	辻本 浩章 2685	佐藤絵理子 2982	徳尾野 徹 2713	角野 昇八 3078	杉田 歩 2904
高田 洋吾 2970	村治 雅文 2976		宮本 佳明 2176	鬼頭 宏明 3050	宮口 智成 2768
情報工学科	バイオ工学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共通	事務室等
柳原 圭雄 2773	井上 英夫 2782	澤田 吉裕 2660	赤崎 弘平 2717	(応用数学)	教務担当 2653
鳥生 隆 2684	北村 昌也 3091	逢坂 勝彦 2962	嘉名 光市 2715	多羅間茂雄 2669	庶務担当 2651
中島 重義 3096	中西 猛 2783	高坂 達郎 2182	佐久間康富 2716	鈴木 広隆 2712	
辰巳 昭治 2688	大嶋 寛 2700	元木 信弥 2661	中尾 正喜 2993	(機械工作室)	
上野 敦志 3081	五十嵐幸一 2699	山崎 友裕 2181	西岡 真稔 2718	吉岡 真弥 2967	
岡 育生 2779	長崎 健 2696	大島 信生 2961	鍋島美奈子 2719		
阿多 信吾 2191	東 秀紀 2168	橋本 敏 2673	矢持 進 2175		
原 晋介 2795	田辺 利住 3094	A・ビノグラドフ 3049	重松 孝昌 2732		
杉山 久佳 2796	立花 亮 2702	兼子 佳久 2179	遠藤 徹 2733		
辻岡 哲夫 2192	東 雅之 3092	横川 善之 2743	貫上 佳則 2728		
	立花 太郎 2167	中村 篤智 2741	水谷 聡 2727		
		岸田 逸平 2194			

## 第21回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠に有難うございます。

さて、標記の**第21回評議員会**を下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日時：2010年(平成22年)2月20日(土)

午後1時30分～2時20分

会場：大阪市立大学学術情報総合センター

1階 文化交流室

なお、ご欠席の場合の**委任状**(後日送付)は、2010年2月13日までに必ずご発送ください。

## 編集後記

大阪市立大学工学部同窓会は、大阪市立都島工業専門学校(1943年～1951年)と大阪市立大学工学部(1947年～)の卒業生で構成されています。工学部は、大阪市立大学の中でも学生数がもっとも多い学部であり、毎年多くの卒業生が同窓会に加わっています。大学法人化の余震はまだ続いており、さらに大きな変化が起こることないとはいえません。過去を振り返ると、教育制度の改革、校舎の移転、入試制度の改革、一般教育課程の廃止、バブルとバブル崩壊、その他の社会の種々の大きな変化がありましたが、工学部同窓会はそれらを乗り越え2010年に設立50周年を迎えます。これは、発展を続けるわが同窓会ならびに大阪市立大学工学部にとって大きな節目であり励みであります。既にご案内しましたが、設立50周年記念事業への皆様のご理解とご協力をお願いします。また、ホームカミングデー(11月3日 银杏祭期間中)や2月に開かれる「工学部同窓会の集い」(2年に1度は母校で開催)には是非ともお出かけ下さい。会員の皆様に、大阪市立大学の今に次の半世紀あるいはさらなる将来へのスタートを実感して頂ければ幸いです。

(山田文一郎)

## 編集委員

○山田文一郎(応化：昭和40年修) 南齋 征夫(機械：昭和39年卒)  
大嶋 寛(応化：昭和49年卒) 村治 雅文(電気：昭和62年卒)  
谷口 徹郎(建築：昭和59年卒) 大島 昭彦(土木：昭和55年卒)  
人見 宗男(機械：昭和31年卒) (○印：委員長)



# “工学部同窓会の集い” — 第8回キャンパス交流会 —

来春の“工学部同窓会の集い”は第8回キャンパス交流会として、下記の通り開催します。

講演会では、大阪市立大学大学院工学研究科の都市系専攻教授谷口与史也氏（建築・昭和58年卒）と、化学生物系専攻准教授小畠誠也氏（応化・平成3年卒）のお二人にお願い致しました。

また、懇親会は本年新しく改装された第1学生ホール（旧教養食堂・プチシェリエ）で初めて開催し、現・旧の恩師の方々にもご臨席頂くようお願いする予定です。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねてのご参加も大歓迎で、年々増えております

## 記

■日時：2010年2月20日（土曜日）午後2時30分～午後6時00分

■講演会：時間＝午後2時30分～午後4時20分

会場＝大阪市立大学学術情報総合センター（1階）文化交流室

1) “光機能性有機分子材料の新展開”

大阪市立大学大学院 工学研究科准教授 小畠 誠也 氏

2) “木造建物の地震振動エネルギー吸収装置”

大阪市立大学大学院 工学研究科教授 谷口 与史也 氏

■懇親会：時間＝午後4時30分～午後6時00分

会場＝第1学生ホール（旧教養食堂・プチシェリエ）

会費＝3,000円（当日、会場にて徴収）

【申込方法】 1)連絡事項：①ご氏名、②学科（専攻）名、③ご卒業（修了）年、  
④住所（連絡先）、⑤講演会の出欠、⑥懇親会の出欠  
2)方 法：ハガキ、FAX またはe-mail  
3)期 日：2010年2月15日（月曜日）

【申 込 先】：大阪市立大学工学部同窓会 事務局  
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
FAX：06-6605-2769  
e-mail：dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp



【秋の旧教養キャンパス：（左）全学共通教育棟（旧3号館）・（右）2号館の時計】